

第 73 回接続料の算定等に関する研究会の議論を踏まえた
東日本電信電話株式会社及び西日本電信電話株式会社への追加質問及び回答

問 加入電話・ISDNをスタックテストによる検証対象から外すとしても、ソフトバンクからの意見にあるように、小規模法人向け直取電話のニーズが未だ一定程度存在していること、光回線を利用したクラウド電話等が選択可能とはいえ料金が高過ぎてなかなか移行できない等の事情を考慮するならば、何らかの手当は必要だと考えられます。このような状況に応える解決策があればご提案頂きたい。

(関口構成員)

(NTT東西回答)

○ クラウド電話サービスは、従来の電話サービスに比べて、以下のようなメリットを持ったサービスです。

- ① テレワーク中や外出先で、パソコンやスマートフォンからオフィスの固定電話番号での発着信が可能
- ② お客様がご利用中のパソコンやスマートフォンにアプリをインストールすれば導入でき、オフィスでの電話機の設置が不要

そのため、基本料や通話料に係るコストメリットだけではなく、電話機等の端末も含めた通信環境全体のコスト削減やお客様の業務効率化に資するサービスとして、小規模法人のお客様を含めて導入の提案を実施し、ご好評をいただいているところです。

- なお、通信のご利用が少なく、クラウド電話サービスの導入によるコストメリットが小さい場合や、テレワーク中や外出先においてオフィスの固定電話番号での発着信が不要である場合等、クラウド電話サービスの利用料と導入メリットが見合わないというケースもありますが、そのような場合には、より安価な光 IP 電話サービスの提案等を実施しているところです。
- 以上のとおり、当社としては、クラウド電話サービスや光 IP 電話サービスを含め、お客様の業務環境・通信環境に応じて、より利便性や費用対効果の高いサービスを提案、提供できるよう日々取り組みを進めているところであり、競合する各社においても、法人のお客様に対して同様に取り組みを進めているものと想定します。
- ソフトバンク殿においても、クラウド電話サービス「UniTalk」を提供され

ており、そのサービス内容や料金は当社の「ひかりクラウド電話」と同様のものと認識しております。

- なお、加入電話・ISDN をスタックテストの検証対象から除外した後、当社のドライカップ接続料と固定電話の利用者料金との関係が不当な競争を引き起こしているという具体的な根拠がソフトバンク殿より提示されるのであれば、当社としては、必要に応じて議論をさせていただく考えです。

以上